

入賞

言葉の力

岩出第二中学校 3年 山崎 心晴

私は、将来立派な看護師さんになりたい。そう思いはじめたのは、2年前、私が手術のために入院したときです。

病気が発覚したきっかけは、私が中学1年の夏におなかの痛みを感じ病院へ行ったところ、腎臓が腫れているので2日後、大きい病院へ行ってくださいと言われてことです。そのとき私は、どうせ薬をだされて終わりだろうと思っていましたが、実際にその病院へ行って、検査を受けてみると、手術が必要なくらいまで腫れていると言われました。医師から伝えられた病名は「水腎症」です。水腎症とは腎臓から繋がる管が狭くて、腎臓に水が溜り、腫れてしまうという病気です。私はそれを聞いたとき、想像よりもかなり重大な病気だったので、とても不安になりました。そして医師がここでは手術できないのもうひとつ大きい病院へ行ってくださいと言い、紹介状を書かれ、私の不安はさらに募りました。1ヵ月後、その大きい病院へ行くときに手術日が決まりました。入院日までに、病気が悪化しないかとても心配でしたが特に変わることなく入院日を迎えました。入院前は看護師さんからの手術の説明で不安でしたが、入院当日は気持ちを整理して、緊張はほぼなかったです。ですが手術日になり少しずつ実感が湧いてきて不安になりました。そんなとき定期的に部屋へきてくれる看護師さんが声をかけてくれました。「手術緊張するけどいい先生やから大丈夫!」。私はこの言葉に助けられました。看護師さんは何気なくかけた言葉だったかもしれないけど、私の不安は取り除かれました。手術時間になり、手術室へ行くときも、看護師さんはずっと私に声かけをしてくれたり、不安を軽減するために手術室で音楽をかけてくれたりしました。その時から少しずつ周りに気を配れる看護師さんに憧れていました。数時間後、目を覚ますと手術は無事終了していました。その日の夜、傷跡が痛くてなかなか寝れずにいると、看護師さんが見回りのついでに様子を見にきてくれました。私が傷跡が痛くて寝れないことを伝えると、看護師さんが「次、痛み止めいれられるの12時やからあと

ちょっとだけがんばって!」と静かな声で言ってくれました。12時まで少し時間はあったけど、なんとかたえて、その日は終わりました。次の日からは順調に回復していき、ついに退院日前日になりました。私は退院するのがさみしくなってしまう看護師さんたちとたくさん話しました。看護師という職業にすごく興味があった私はいろんな質問をしました。なぜ看護師になったのか、どういうときが一番うれしいか。すると全員に共通する看護師の特徴がありました。それは皆やりがいがあるということです。患者さんと話したり、医師のサポートをしたり、いいことはかりじやなく、つらいこともたくさんあると思います。でも、そんな多忙な日々の中にもやりがいを皆、それぞれ見つけられる。そんなすてきな職業、他にない。入院中に見た立派な看護師さんたち。私も将来、やりがいを見つけれられる立派な看護師さんになりたいと思いました。

私は、看護師さんの言葉に救われました。言葉には、それくらい偉大な力があります。それは逆に簡単に人を傷つけることもできるということです。言葉は決して人を傷つけるためのものではなく、助け合うためのものだと思います。看護師さんが私にしてくれたように、将来私も、言葉の力で1人でも多くの患者さんを救えるすてきな看護師さんになりたいです。